

天皇陛下誕生日レセプション挨拶

12月12日（火）18時30分（@シェラトンホテル）

ファム・ミン・チン政治局員、党中央組織委員長、越日友好議連会長

マイ・ティエン・ズン、政府官房長官

12の省の指導者の皆さま

御列席の皆様、

本日は、天皇陛下誕生日祝賀レセプションに多くの方に御出席いただき、日本政府を代表し、心より感謝を申し上げます。天皇陛下は、12月23日、84歳になられます。

2017年は、日本・ベトナム交流史において特別意義深い一年となりました。3点ご説明致します。

1. 第1点は、一年を通じて日越両国の要人交流が間断なくあった事です。

これほど濃密な要人往来は、稀であり、非常に恵まれた一年でした。

（1）天皇・皇后両陛下による初のベトナム御訪問は、両国関係を新たな次元に引き上げました。ご高齢の天皇陛下が御退任の意思表示後にもかかわらず、ベトナムをご訪問されたことは、日本のベトナム重視の証（あかし）です。

ベトナム政府及び国民が両陛下を温かく迎えて頂いた様子は、日本の新聞・テレビ等で連日大きく報道され、日本人のベトナムへの親近感は確実に強くなりました。なお、先日、天皇陛下の退任式は2019年4月30日、新天皇陛下の即位式が翌日5月1日に行われることが決定されました。

(2) 安倍総理大臣は、本年1月と11月の二度、ベトナムにこられました。ハノイおよびダナンで行われた夫々の首脳会談では政治・安全保障、経済・文化分野で多岐にわたる合意がありました。ダナンAPEC首脳会議、TPP閣僚会議の成功は、主催国ベトナムにとって大きな「外交的成果」でした。日本は、ベトナムと共にTPP閣僚会議の共同議長を務めるなど、ベトナムと緊密に協力し、APECとTPPの成功に貢献出来たと考えています。

(3) 今年、日本からは、両陛下、安倍総理に加え、大島衆議院議長、閣僚6名、県知事8名、日本商工会議所及び経団連の経済ミッション等がベトナムにこられました。

(4) ベトナムからは、フック首相、ファン・ミン・チン中央組織委員長を含む政治局員4名、国家副主席、グエン・ホア・ビン最高人民裁判所長官、マイ・ティエン・ズン政府官房長官をはじめとする16名の閣僚、10名以上の各省人民委員長等が訪日されました。

特にフック首相（6月）は、3百名近い同行者と共に、東京、関西を訪問し、天皇皇后両陛下、安倍総理、衆参両院議長に加え、沢山の経済界、地方公共団体及び友好団体関係者と精力的に会談されました。

2. 第2点は、一連の要人の往来、首脳会談の具体的成果として、日本企業の対ベトナム投資、経済協力、防衛協力、文化交流及び地方自治体間交流等が着実に活発化している事です。

（1）例えば、日本の今年の対ベトナム投資件数は、11月現在、既に515件となり、年末までには過去最高となると見込まれています。直接投資総額も、11月末までに昨年のほぼ4倍、85億ドルとこれまでの最高額を記録しています。

ハノイ、ホーチミン、ダナンの日本商工会議所に登録している日本企業数もこの1年半で約190社増加し、総計1741社となりました。アセアン10か国の日本商工会議所の中で1位のタイ（1762社）に迫っています。

（2）経済協力分野では、いわゆる「65%問題」に起因し、インフラプロジェクト等の進展は遅れ気味ですが、人材育成、医療分野の協力、草の根無償資金協力を強化しています。

(3) 防衛分野では、「パシフィック・パートナーシップ」の下、護衛艦「イズモ」のカムラン湾初寄港、第1回航空救難セミナー、第1回防衛産業フォーラム開催など新しい交流が進展しています。

(4) 文化分野では、日越の大学間交流及びベトナムにおける日本語学習者の増加に加え、ベトナムの公教育における学校給食、音楽教育、体育教育の導入といった新たな協力も始まっています。日越大学も2年目を迎え、更なる躍進が期待されます。

3. 第3点は、国民レベルの人的交流の増大です。

(1) 現在、約23万人のベトナム人が日本に居住し、少子高齢化に直面する日本を支えて頂いています。在日ベトナム人は、2012年頃から急増し、この5年間で6倍増となりました。内技能実習生は、この5年間で8倍増、10万人を超え、国別で中国を抜き1位です。ベトナム人留学生は、12倍増の約7万人、国別では2位です。

(2) 日本政府は、ベトナム政府との連携を強化し、ベトナムの若者達が日本に行って良かったと思える「枠組み作り」を急ぐ必要があると考えています。

4. 来年2018年は日越外交関係樹立45周年という記念すべき年を迎えます。日本側では実行委員会を今年8月立ち上げ、ベトナム側と協力して「ロゴマークの選定」を進めています。また、来年に向けて、文化・芸術分野をはじめとする様々なイベントを企画中です。

御列席の皆様には、来年も引き続きご協力を宜しくお願い申し上げます。

5. なお、本日のレセプションを盛り上げるために、ベトナム国立交響楽団に加え、8企業（トヨタ自動車、ホンダ、キャノン、三菱重工、豊田通商、サッポロビール、フエ・フーズ、モア・プロダクション）、5つの地方自治体（岐阜県、福井県、大分県、茨城県、松坂市）、JNTOの御協力を得ております。皆様に、さまざまな日本を堪能いただければ幸いです。

6. 最後に、皆様の御健勝、日越関係の一層の発展を祈念し、私の挨拶と致します。

有難うございました。（了）